

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	塚本 美紀	職名	准教授	学位	修士(教育学)(テンブル大学 2005年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育学	異文化理解教育、異文化理解・対応力の測定、ESD(Education for Sustainable Development)

研究課題
異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。また、持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察を深めたい。

担当授業科目
グラマー・コンポジション I (A)、(B) (前期) 専門演習 I (前期) グラマー・コンポジション II (A)、(B) (後期) 英語教科教育法 I (後期) 英語教科教育法 IV (後期) 専門演習 II (後期) 教職実践演習 (中・高) (後期) 北九州の過去・現在・未来 (後期) 初年次セミナーII (後期) 地域プロジェクト (後期) 国際ボランティア演習 (後期) 卒業研究 (通年) 事前及び事後の指導 (通年) 教育実習 II (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【グラマー・コンポジション I】 重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用し、学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるようにした。
授業科目名【専門演習 I】 国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、動画を見たり、さまざまな国の人々と英語で交流したりする機会を持てるようにした。
授業科目名【グラマー・コンポジション II】 授業で学んだ文法項目や英語表現が定着するよう、多くの演習問題を行ったり、エッセーを書いたりする機会を設けた。

<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅰ】</p> <p>学生にとっては、馴染みの薄い用語などが多く出てくるので、学生が理解しやすいよう具体例などもあげながら説明した。また、毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。</p>
<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅳ】</p> <p>これまで学修した理論を実践に活かせるよう、全学生が模擬授業を実施する機会を設けた。また、学生同士、互いの模擬授業について、良かった点と改善点について討論する時間を設けた。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅱ】</p> <p>来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。</p>
<p>授業科目名【教職実践演習（中・高）】</p> <p>学生が将来授業を行う際の選択肢が増えることをねらって、ワールドカフェ形式の討論やパワーポイントを用いた発表など、授業のやり方にさまざまな形を取り入れた。</p>
<p>授業科目名【北九州の過去・現在・未来】</p> <p>北九州出身ではない学生も多いので、北九州市についての基礎的な事項の紹介から始まり、北九州に関する新聞記事、書籍、映像などを用いたり、外部講師による講演を行うなどして、北九州について多角的に捉えられるよう紹介した。また、それぞれが学ぶ専門分野がどのように地域に貢献できるかということについての発表を行い、学生同士が互いに学ぶ機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】</p> <p>レポート作成の際、どのように文章を構成したら良いかわかるように、例を紹介しながら、段階を追って説明し、スモールステップを設け、実際にレポートを作成してもらった。</p>
<p>授業科目名【地域プロジェクト】</p> <p>地域の環境問題について、国内外で様々な取り組みをしてきた方を外部講師としてお招きし、一人一人の学生が自分たちの専門性を生かして地域貢献ができるようなプロジェクトを行った。</p>
<p>授業科目名【国際ボランティア演習】</p> <p>一人一人が主体的に取り組めるよう、小さなグループでプロジェクトに取り組めるようにした。また、カンボジアの大学生とオンラインで互いの地域の状況などについて報告し、各自ができることについて話し合い、遠い国で起こっていることについても自分の問題として考えられるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【卒業研究】</p> <p>計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。</p>
<p>授業科目名【事前及び事後の指導】</p> <p>英語教科教育法Ⅳで行った模擬授業で明らかになった課題を克服する形で、模擬授業を行ってもらった。このことによって、模擬授業を実施した学生も、見学した学生も、授業改善のプロセスの一部を体験できたと思う。また、中学校や高等学校の教員を招き、教員の在り方や指導法等について講演してもらった。</p>
<p>授業科目名【教育実習Ⅱ】</p> <p>教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」 日本 ESD 学会 北九州サステナビリティ研究所	副代表理事(2016年8月～現在に至る)	1990年9月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年6月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) What EFL students learned from international sojourn and exchange programs: The case of Japanese and Cambodian university students	共	2020.2	16 th CamTESOL Conference (於 Institute of Technology of Cambodia, Phnom Penh, Cambodia)	① 英語学習者が海外交流プログラムでどんなことを習得することができるかについての考察 ② 共同発表者名 井川好二 塚本美紀
			教育研究業績 総数 (2019.3.31 現在) 著書 1 (内訳 単 0、共 1) 学術論文 11 (内訳 単 6、共 5) 学会発表 10 (内訳 単 0、共 10)	

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
九州地域における学生ネットワークの構築- 学生の主体的学びを促進するために-	西南女学院	640,000円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本英語検定協会 北九州 ESD 協議会 Zonta International (世界の女性の地位向上を目指す国際的奉仕団体)	面接委員 会員 北九州ゾンタ書記	1993年7月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2018年6月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
学生募集委員会 委員 (2018年4月1日～2020年3月31日) キャンパスハラスメント相談員 (2014年4月1日～2020年3月31日) ゴールデンZクラブ 顧問 (2014年4月1日～2020年3月31日) 教職員懇親会 委員 (2016年4月1日～2020年3月31日) 学生個人情報保護委員会 委員長 (2018年4月1日～2020年3月31日)